

平成26年度秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 平成27年3月20日（金） 午後2時～午後4時

【場 所】 秋田市山王 ルポールみずほ2階 「ききょうの間」

【出席者】 学識経験者：江島委員、高橋委員、高谷委員、丸山委員
事業主代表：阿部委員、加藤真委員、雑賀委員、野口委員、山内委員
労働者代表：荒井委員、加藤忠浩委員、川口委員、菅原委員
特別委員：木下委員、鎌田委員
(事務局)：佐々木産業労働部長、保坂雇用労働政策課長ほか関係職員

【概要】

1 開 会

2 秋田県産業労働部長あいさつ

3 秋田県職業能力審議会会長選出

秋田県職業能力開発協会長の高橋昌一委員が会長に選出された。

4 秋田県職業能力審議会会長あいさつ

5 会長代理指名

会長が江島委員を会長代理に指名した。

6 議 事

(1) 報告事項

- ① 県立技術専門校配置図・訓練科目
- ② 平成26年度県立技術専門校修了予定者の就職内定状況
- ③ 平成27年度県立技術専門校訓練生の入校選考の状況
- ④ 平成26年度職業能力開発事業実施状況
- ⑤ 平成27年度職業能力開発事業実施計画
- ⑥ 県立技術専門校のカリキュラムの見直しについて

(2) 協議事項

平成27年度職業能力開発事業運営方針（案）について

事務局から報告事項について説明があり、質疑応答を行った。

次に、事務局から協議事項について説明があり、質疑応答を行った。

いずれも各委員において異議が無く、事務局が示した原案のとおり了承された。

主な質疑応答等は次のとおりである。

(報告事項)

- ① 県立技術専門校配置図・訓練科目
- ② 平成26年度県立技術専門校修了予定者の就職内定状況

- ③ 平成27年度県立技術専門校訓練生の入校選考の状況
- ④ 平成26年度職業能力開発事業実施状況
- ⑤ 平成27年度職業能力開発事業実施計画
- ⑥ 県立技術専門校のカリキュラムの見直しについて

○ カリキュラム見直しへの各業界団体からの意見については、素案を団体に提供して意見をもらっているのですか。それとも、何か意見があればという形で依頼しているのですか。

→ 初めにアンケートをとり、それを参考に素案を作成し、その素案に対する意見を関係団体からいただいています。

○ 鷹巣技術専門校の建築工芸科について、大幅な定員割れが続いているとアンケートの課題の中にもありますが、これに対して具体的に決まっていることはありますか。

→ 来年度実施する第10次秋田県職業能力開発計画（以下「10次計画」という。）の策定では、鷹巣校の建築工芸科をどうするかが、大きなテーマとなります。

現状の定員20名の見直しや、これから求められる新しい産業分野を鷹巣校にどのように反映していくのか。大曲校の入校者数も定員の半分程度であり、大曲校もどのように考えていくのか。10次計画の策定に向けて一番大きな取組であります。

○ 魅力のある科は定員を満たしているかと思しますので、現代のニーズに合った科を考えていくべきではないでしょうか。実際に、秋田校のオフィスビジネス科に求人をお願いをしても、定員が20名で、なかなか募集に結びつかないので、定員を増やしていただければと思います。

→ 定員については、鷹巣校は入校者数が少なく、カリキュラムだけではなく、そもそもものあり方についての話になり、少なくとも定員20名の見直しが必要です。

逆に秋田校の定員を増やしてはどうかということもあります。定員を増やすには、施設や指導員確保などの問題もあり、需要を見極めながら3校全体の対応を考えていき、10次計画では根本的なあり方を入れていきたいと考えております。

○ 緊急職業訓練受講支援事業の受講奨励金の支給を受けられた方206名、短期訓練事業の入校者が18名とありますが、この方々は就職に結びついてますか。

→ 緊急職業訓練受講支援事業の就職者数は、平成26年9月に開講した訓練の就職状況がまだ出ていないため、今年度の人数についてはお答え出来ませんが、事業を始めた平成21年度から平成25年度までの平均の就職率は61.4%です。

また、短期訓練事業は、4月と10月の入校で6か月訓練で実施しており、前期の4月の入校者は8名で修了者が6名、うち4名が就職しています。なお、訓練修了3か月後の報告になりますので、後期については平成27年7月以降に確定します。

○ 若者職場定着のセミナーに是非参加したいと思っておりますが、募集はどのような方法で行うのですか。広くいろいろな方に出席いただきたい。

- 若者職場定着のセミナーについては、県が関連団体に委託して実施します。
公募により是非取り組みたいという企業約20社に年間を通じて受講してもらいます。集中的なセミナーとして、経営者、中堅・若年者等に対象を分けたセミナーと合同のセミナーの3種類を繰り返して行います。
また、一般の県民の方に向けても、報告会やフォーラムなどでアピールしていきますので、若者の職場定着の取組に向けた気運が高まってくれればと考えています。

(協議事項)

平成27年度職業能力開発事業運営方針(案)について

- 若者職場定着の施策で、職場定着連絡会を設置されるということですが、会議の頻度やどのように進めていくのですか。
- 新年度に出来るだけ早く発足させて、年末までには事業の成果・課題等を検証する2回目の連絡会を行いたいと考えております。
この連絡会では、国・市町村・経済団体等が行っている様々な若者の職場定着のための取組の成果を共有し、その共有した情報を次の事業展開等に活かしていきたいと考えています。
- 高校の技術専門校に対する認知度はどうですか。今後どのようにして認知度を上げて入校者数を増やしていくのですか。
また、マイスターについて、小・中学生にもものづくりに興味を持ってもらうことはとても大切なことですが、高校について、高校と連携し出前講座のような形で、高校と技術専門校のパイプをつなげていくのはどうですか。
- 各技術専門校の指導員が常に高校を訪問しています。工業高校だけではなく、普通高校からも入校者は来ます。
マイスターについては、県内に124名の様々な職種のマイスターがいます。小・中学生には分かりやすくものづくり教室のような取組をしています。高校生にはもう少し高度なものを、若手技術者にはより専門的なことを行っています。これは県職業能力開発協会が実施しており、平成26年度のマイスターの活動数は、平成25年度の倍以上になったと聞いています。
- (県職業能力開発協会の取り組み)
3年前から「若年技能者人材育成支援等事業」が始まりました。
1つは、小・中学校でのものづくり教室ですが、ある学校へは14職種あるうちの3~4職種のマイスターの方に指導していただいています。高校ではものづくりマイスターや熟練技能者の指導のもとに、主に旋盤職種の講習等を実施しています。若年技能者を養成していく目的で事業を実施しています。
もう1つは、市民・県民に対して技能振興へ関心を持ってもらうため、ものづくりフェアを開催しています。3年前からは県南・中央・県北と3か所で実施しています。
- (高校の取り組み)
まず、技術専門校の認知度は十分で、工業高校で技術専門校を知らない高校はあり

ません。入学者数の減少だけでは、技術専門校の意義や役割は測れないと思っております。技術専門校は工業高校等と連携して高校生を育ててくれており、ものづくりの全国大会へ出場する際の指導や、大会の審査員や会場となるなど、ものづくりへのモチベーションを上げる意味でも、技術専門校は大きな役割を持っています。

マイスター制度については、ほとんどの工業高校で活用しており、資格取得へ向けても頑張っています。今年度は旋盤職種で全国3位に、測量で全国2位になる高校もあり、マイスター制度のお陰だと思っております。

- 再生可能エネルギーについて、今後、秋田県として考える場合、洋上風力あるいは風力発電の建設やメンテナンスの仕事に携わる方の養成を今からしていくという、風力に特化した人材育成が1つの目標になるのではないかと思います。

発電に携わる場合、電気設備や配電線の知識等複合的な知識の習得が必要になるので、技術専門校や教育機関の中で、複数の知識を身につけられるプログラムが構築されればと思います。

- 本県の再生可能エネルギーについては、1番は風ですが、風力・地熱・水力の3本柱に、木材関係のバイオもあります。特に本県では風力に力を入れて事業を進めております。建設については数年間の一時の投資に過ぎませんが、その後の維持管理は何十年と続きますので、そのための人材の育成を目指していきたいと考えております。技術専門校も、高校からの教育も含めて養成をしていきたいと考えております。

- 技術専門校の建築科等では大きく定員割れをしており、定員を減らした方が良いのではという話もありましたが、現実問題では、建設業界の技能工の高齢化や人手不足により、工期が軒並み遅れており、値段も高騰している状況があります。大工といっても型枠、軽鉄・ボード関係、左官等様々ですが、非常に人材不足となっております。技能工がここまで不足している中で、建築はものづくりの原点であると思うので、考慮していただきたいと思っております。

- 大曲・秋田校の訓練科を見ると、鷹巣校へも取り入れてもらいたい科もありますので、鷹巣校の定員を減らしたとしても、科を増やす等対応をしてもらいたいと思っております。

CAD設計等は、女性の方が能力を発揮している状況もあるので、女性のものづくりに対する啓発についても考えていただきたいと思っております。

- 鷹巣校の建築工芸科は入校者数が少ない状況にあります。鷹巣校は中卒以上を対象にしており、修了後の資格取得、その後の上位の資格取得でも高卒以上を対象としている大曲校と比べ、資格取得に必要な実務経験年数に違いがあります。訓練対象者や入校時期など定員を減らすこと以外についても考えていきたいと思っております。

技術専門校3校で11科ありますが、民間でも出来るものを県で実施するのではなく、民間でやらない基本的なところを引き続き県として実施していく必要があると考えます。その中で技術専門校のあり方について、今後1年かけて皆様と議論していきたいと考えています。